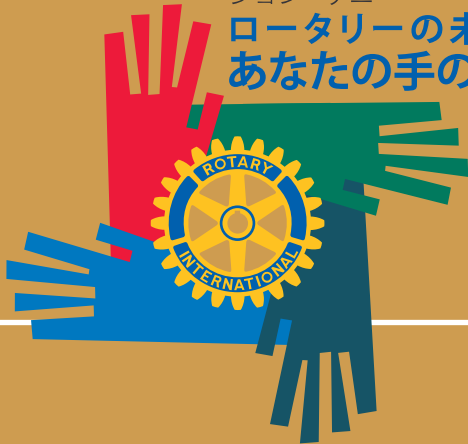


2009~2010年度 国際ロータリーのテーマ
ジョン・ケニー

ロータリーの未来は
あなたの手の中に



会長/対馬健一 幹事/中出敏彦

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ 会報

2009▶2010 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

親睦でクラブの活力と結束を、 そして奉仕は足もとから

プログラム

- 本日
クラブフォーラム
会員誕生日 10月31日 中出 敏彦
結婚記念日 10月31日 田中 公一
- 次週予定
新ソバ手打ち夜間例会
ご夫人誕生日 10月31日 大嶋 裕子
11月1日 明澤 裕子
法蘭寺/PM6:30

No. 2393

第16回 10月28日

出席報告

前例会

会員総数.....43名
 出免会員.....0名
 出席出席.....0名
 出席会員.....0名
 出席率.....100%

前々会

第13回 10月4日

出席会員.....43名
 メイクアップ.....0名
 修正出席率.....100%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告.....

- 本日午後4時から2510地区渡邊ガバナー公式訪問による会長幹事会、午後5時よりクラブ協議会が開催されました。
- そらぷちキッズキャンプ支援募金の第1回目の集計が出ました。86,495円です。皆様のご協力に感謝致します。引き続き募金活動を毎例会行いますので、ご支援願います。
- 地区補助金による地域貢献事業（交通安全横断幕作成）の完成と贈呈の予定日が決まり社会奉仕委員長さんと一緒に関係機関を訪問する予定です。

ビジター

国際ロータリー第2510地区

ガバナー 渡邊 恭久様

国際ロータリー第2510地区

地区幹事 福井 義昭様



ニコニコBOX.....

- ・おじゃまします RI 2510 渡邊ガバナー
福井地区幹事
第1G田中ガバナー補佐
小平RC
羽幌RC
- ・本日お世話になります 羽幌RC 工藤会長
- ・羽幌RC30周年大変ありがとうございます
本日お世話になります 羽幌RC 實藤会員
- ・渡邊ガバナーをお迎えして3クラブ合同例会
多くの皆様のご参加ありがとうございました
対馬会長
- ・先日新聞に載りました 次年度青年部会長を

務めます

申橋会員

| | |
|-----|----------|
| 前 回 | 370,000円 |
| 今 回 | 41,000円 |
| 累 計 | 411,000円 |

プログラム……………

「ガバナー公式訪問＝3クラブ合同夜間例会」

ガバナー挨拶 渡邊 恭久様

本日留萌・小平・羽幌クラブのご好意により1度に3つのクラブの公式訪問を済ませる事が出来ました。皆様のご配慮により、これで残りは73クラブ中11クラブであります。

さて、先日の滝川市にて開催された2510地区大会には、元第1グループの仲間として親戚のように思っている第1グループの皆さんには多くの方々のご登録並びに参加を頂き、厚くお礼申し上げます。地方で行なう地区大会でありましたので、色々物理的条件とかあるいはイメージも含め、参加が昨年より少ないだろうと覚悟しておりましたが、お蔭様で1,480名の会員のご登録をいただきました。更にまた、R I会長代理が外国人ではなく、非常に滝川とご縁が深い盛岡ご出身の田口良一パストガバナーにご出席いただきました。とてもスムーズに大会が運営され、さらに且つそらぶちキッズキャンプの支援が大会で決議され、田口良一パストガバナーR I会長代理ご自身も大変感動され、キッズキャンプにご支援を頂くなど、大変盛り上がった地区大会を開催する事が出来ました。心からお礼申し上げます。

今年の1月18日から28日まで、ロサンゼルス以南200キロの所にサンディアゴという街がありますが、そこで国際協議会が開催されました。外国旅行をする方には有名な所だそうで、白人が北アメリカ北米に最初に足を踏み入れた所がこの街だったそうです。私はもちろん初めてだったのですが、とてもきれいなヨットハーバーがあり、そこにはヨットが何百隻も停泊しておりましたが、軍港でもあり何隻か沖に軍艦が停泊しておりました。非常に広々とした良い



街で、そこでR I会長に予定されていたジョンケニー氏が「ロータリーの未来はあなたの手の中に」と我々の成すべき仕事についてしっかりと訴えられました。その事につきましてはクラブ活動計画書の1ページに留萌・小平・羽幌クラブとも載っておりまして、後ほどお読みいただければと思います。

そのR I会長の考えに基づいて2510地区の地区テーマを「環境、人、子供に目を向けよう」といたしました。環境については、昨年北海道の我々の地区内である洞爺湖で、世界の首脳が集まり環境について討論なされました。その最も近い所のロータリーとして環境を最初に掲げたのは当然でございます。人、子供に目を向けようにつきましてはあえて説明する必要はないと思っておりますが、その中で具体的な事業について4つを掲げました。

第1にそらぶちキッズキャンプ。小児ガンや難病で病氣と戦っている子供たちに、それを支えていくキャンプに支援しようというものです。第2は水、保健、飢餓です。世界で苦しんでいる人たちに対して、それを支援しているWCSを支えているクラブを支援しようというものです。第3は会員を1名増やそうです。会員増強というのはロータリーにとって非常に大事な必須のテーマです。会員減少はロータリーの活力を失いますし、また財政的にも非常に厳しくなっていきます。運動の効果も萎えてきますので、会員はしっかりクラブも含めて会員維持をしていかなければなりません。来年の6月には現在の会員数よりプラス1名をお願いします。

そして最後に職業倫理の醸成と職業奉仕の実践です。まだまだロータリアンとしても職業倫

理に欠けると、マスコミや第三者から言われる事がございます。そんな事が無いように私どもも気を付けながらしっかり自分の職業に対して取り組んでいかなければならないと思います。

そらぶちキッズキャンプについて少しお話をさせていただきます。先ほど話した田口良一RI会長代理が滝川に来ると決まったのが、ほぼ1ヶ月前でありました。さっそく盛岡に行きまして田口RI会長代理にお会いし、この大会はこういう形で大会を運営し、かつまたこの大会でこのテーマについて出来れば決議をしたいと思っているという話をさせていただきました。

10月1日午前10時に千歳に到着されるとのことで、滝川から何名かでお迎えに上がりましたが、田口良一RI会長代理ご夫妻をお迎えして、最初に申されたことは、「そらぶちキッズキャンプはどこにあるの？滝川のどの辺にあるの？もし差し支えなければそこにまっすぐに行ってくれないかい」という言葉でした。私どもは車の中からすぐにそらぶちキッズキャンプの事務局長の佐々木さんに電話をかけ、「大切な人が今そこに行くから、どうかその時間を作って説明してほしい」と連絡をとりました。まもなく2時間半位の後に丸加山に到着し、佐々木事務局長を始め他の人も一緒にお迎えをしてくれました。佐々木事務局長より概要が話され、事務局長はいの一番に9月23日の我々が本当に気にしていたお父さんとお母さんが来た事を話していただきました。

それはちーちゃんと呼んでいた子供の事で、一昨年10月か11月に小児ガンにかかり、ちーちゃんは埼玉県出身ですが、東京の聖路加病院細谷先生というこのキャンプの中心になっている先生の病院に入院したのが始まりです。細谷先生はこの子供に元気を出してほしいと、「この病院生活も苦しいものでないから、出来れば来年の夏には北海道の丸加山という所に行って、グライダーに乗ったり、乗馬をしたり、カヌーに乗ったりと色々な体験や遊びをしよう。その時は先生が付いて行くから」と話をしたそうです。ちーちゃんはそのキャンプについて分からなかったのだけど、北海道に連れて行ってあげ

る、飛行機に乗せてあげるという話を聞いて、いつも両親に色々聞いていたそうです。昨年の春ごろにその子供たちのお父さんお母さんを集めてキャンプの説明会を致しました。お父さんお母さんはたった一人の7歳の子供がガンにかかって、非常に厳しいと言われていたのだろうと思います。両親は全財産を叩いてもその子供に一生忘れられない、短い生涯を忘れない体験をさせてやろうと、乗馬の話やカヌーの話をしたのだろうと思います。初夏の頃になり、急にちーちゃんの体調が悪くなって、もちろん8月に参加する予定の小児ガンの子供達のキャンプも欠席いたしました。どれだけちーちゃんがその日を待っていたのかわかります。お父さんもお母さんもちーちゃんに付いてくる予定でした。春を待たない今年2月に7歳の人生を終えました。両親の悲しみはそれは言葉に表せない辛さだったと思います。お父さんお母さんは葬式に來られた人の香典を大切に預かりながら、香典返しはこのキッズキャンプに寄付すると書くのが精一杯でした。今年の9月までじっと仏壇に向かつて毎日を過ごしたのだと思います。

9月23日にすでにキャンプは終わっていましたが、お父さんお母さんが遺影とちーちゃんの遺骨を持ってキャンプに参りました。ちーちゃんの出来なかったグライダーに乗り、乗馬も遺影を持って行きました。そして暫くして、キッズキャンプの丘の上に桜を1本植樹して持ってきたちーちゃんの遺骨を散骨したそうです。香典はもちろんキッズキャンプに寄付したそうで、これからもご夫妻はボランティアでこのキッズキャンプを応援すると言って帰ったそうです。

どんなにか同じ境遇の子供たち、そして遊ぶことの出来ない子供たちが、病室の外から聞こえてくる同じ位の年頃の子供の声や喜びや悲しみの声を聞きながら、自分にはもう人生は無いと思った矢先に、このキャンプに行けるという喜び…。このキャンプに参加した子供たちはキャンプの終わりにはまた来年会おうねと言って帰って行く、この子供達に生きる力を与えるキャンプ…。アジア、日本でたった一つのこのキャンプを私自身、知ることが出来ました。そ

第15回 10月21日(水) 天候/曇

ここでロータリーとして、ロータリアンとして一緒に応援しようと皆さんに声をかけた次第です。

ロータリーの奉仕は言われてするものではありませんし、かたまって同じ歩みをするものでもありません。一人ひとりが考えてする行為だと思っています。7から9のメニューを作りま

した。クラブあるいは会員の皆さんたちがご自身で判断していただいて、どうかこの子供たちのためにこのキャンプを支援する輪の中に入っただきたいと思います。時間が来ました。ご清聴ありがとうございます。

